

令和元年度8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和元年8月2日（金）午後1時00分～1時45分

場所 市役所2階 第2委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. ベトナムパラリンピック選手団の事前合宿に係る基本合意書締結式の実施について

- 8月4日（日）から7日（水）の日程で、ベトナム文化スポーツ観光省スポーツ総局から、グエン・ホン・ミン副総局長以下4名、およびベトナムパラリンピック協会からブー・テ・フィエット副会長兼事務局長が来鉤し、2020年東京パラリンピックに向けた事前合宿を当市で実施するにあたり、基本合意書の締結式を8月5日（月）に実施いたします。
- 本合意書により実施される事前合宿の競技については、パラ・パワーリフティングと、やり投げや円盤投げなどのパラ陸上競技となっており、選手・コーチ・関係者の皆さん10名が来鉤を予定しております。
- 特にパラ・パワーリフティングについては、2016年リオデジャネイロパラリンピックにおいて金メダルを獲得いたしましたレ・バン・コン選手も来鉤されるということですので、合宿実施の際には、多くの市民の皆さんに練習風景をご覧いただき、来年のパラリンピックについて、応援していただければと考えております。
- また、この合宿を契機として、東京以北では唯一となる、国際パラリンピック委員会公認のパラ・パワーリフティング競技用ベンチプレス台を「湿原の風アリーナ鉤路」のトレーニングジムと「サン・アビリティーズくしろ」に設置したことにより、これまで東京や京都などでしか実施できなかった公認器具を利用したトレーニングを、鉤路市内で行うことが可能となりました。
- この他に、現在、湿原の風アリーナ鉤路では「日越ホストタウンバドミントンフェスタ」を開催しております。
これは、当市の他に、ベトナムを相手国とするホストタウンの東京都国分寺市、大分県佐伯市が主体となり、国の協力によって実施しているもので、ベトナムの中学生6名を招聘し、それぞれのまちの中学生と、当市の鳥取中学校バドミントン部による交流試合のほか、本日午後1時から、一般の方も参加可能な、日本代表候補選手によるパラ・バドミントン体験会を開催することになっております。
- 今後につきましては、合宿に来鉤される選手を、市のホームページやSNSでご紹介するとともに、鉤路での合宿が実り多いものとなりますよう、関係団体や市民の皆様と温かいおもてなしの心でお迎えし、ホストタウンとしての交流を深め、さらには「鉤路コールマインの研修事業」や「JICA草の根技術協力事業」を始めとした、当市とベトナムとの友好関係を継続し、経済や文化、人的交流など、さまざまな形で進めてまいりたいと考えております。

2. 観光交流都市・岡山市への友好親善訪問団の参加者募集について

- 岡山市とは、タンチョウが取り持つ縁で、昭和54年より、観光交流都市として観光や物産を通じた交流を行っており、本年で40年目を迎えるものです。
- 今年は、釧路市と岡山市の双方で友好親善交流訪問団を派遣することとなり、既にお知らせのとおり、岡山市から大森市長はじめ、友好親善交流訪問団につきましては、7月22日に来ていただいているところです。
- 岡山市への訪問日程につきましては、11月4日（月）から7日（木）までの3泊4日となり、岡山市主催の「歓迎レセプション」については、夜の岡山城の天守閣内で行われるほか、岡山市内の観光や、兵庫・大阪観光などを行います。
- 友好親善交流訪問団の募集期間は、7月29日（月）から10月4日（金）までとなっております。
- ぜひとも、このようなレセプション等を体験していただき、岡山市と釧路市の友好関係を深めていければと思っておりますので、こちらのPRにつきまして、よろしくお願いいたします。

2. その他（1項目）

1. 釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz オープン1周年記念シンポジウムの開催について

- 昨年のオープン以来、延べ800件以上の経営相談をお受けし、「相談予約2カ月待ち」の好評をいただいております、釧路市ビジネスサポートセンターk-Bizが、8月21日（水）で1周年を迎えます。
- これを記念し、翌8月22日（木）午後6時より、ANAクラウンプラザホテルにおいて、オープン1周年記念シンポジウムを開催いたします。
- 当日は、k-Bizの澄川誠治センター長による1年間の成果報告を行い、「里山資本主義」や「デフレの正体」などの著作で有名な藻谷浩介氏による基調講演、さらには、このお二方に、k-Bizのモデルであります富士市産業支援センターf-Bizの小出宗昭センター長と私も交えた4名でのトークセッションを行う予定となっております。
- こちらは、事前申込制となっております、8月19日（月）を締め切りとさせていただきますので、参加の募集に係るPRと、報道のご協力をお願い申し上げます。

3. 質疑要旨

（質問）

- ・ 事前合宿に係る基本合意書締結式について、ベトナムから来釧される方々の8月4日～7日の行程について、教えていただきたい。

（生涯学習部次長）

- ・ 予定として、8月4日（日）の午後に釧路に入り、5日（月）は、午前10時

から市長応接室で基本合意書の締結式、午後からは、合宿で使用する「湿原の風アリーナ釧路」「陸上競技場」の施設見学を行います。6日（火）は、終日、市内観光となっており、翌7日（水）に、ベトナムに帰ることになっております。

（質問）

- ・ 締結式では、どのような内容が盛り込まれている基本合意書となっているのでしょうか。

（生涯学習部次長）

- ・ 合宿の期間、来年も合宿を行う内容や、ベトナム側で、この合宿について色々と情報発信していただく約束を盛り込まさせていただいております。また、ベトナム側が負担する費用負担についても記載しております。

（質問）

- ・ 市民との交流事業のような内容は、合意書内に入るのでしょうか。また、合宿の期間についても教えてください。

（生涯学習部次長）

- ・ そのようなことに協力するという文言が入っております。このたびの合宿日程は、8月14日（水）から27日（火）となっております。

（市長）

- ・ 選手の練習風景を見学するという感じとなると思います。来年の直前合宿についての期間は、未定です。

（質問）

- ・ 来年は何月頃になりそうでしょうか。

（市長）

- ・ 2020年8月25日がパラリンピックの開会となっておりますから、その前の時期となります。

（生涯学習部次長）

- ・ 選手村に入る直前までとなっておりますので、7月末から8月上旬ぐらいと考えております。

（質問）

- ・ 今回の8月14日～27日の合宿は、釧路市内ということでしょうか。

（生涯学習部次長）

- ・ はい、そうです。

（市長）

- ・ 北海道の中で、ホストタウンを行っているのは、釧路市、網走市、名寄市、士別市、登別市、東川町5市1町となっております。その中で、実際に合宿が決まったのは、釧路市となっている状況です。

（質問）

- ・ このたびの基本合意書の相手先は、ベトナム文化スポーツ観光省スポーツ総局となるのでしょうか。

（生涯学習部次長）

- ・ はい、そうです。

（質問）

- ・ 新しくパラ・パワーリフティング競技用ベンチプレス台を設置したことについて、こちらは、釧路市が負担したということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ なかなか使用できる場所がない器具の設置ということで、今後、日本人のパラ・パワーリフティング選手の合宿にも使えるということでしょうか。

(市長)

- ・ そうです。実際、北海道でも競技を行っている選手がいらっしやいまして、その方は、練習の際には、東京か京都に行かなければならない状況であったということです。

(質問)

- ・ 今回だけではなく、別の誘致もできるということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。使用できる器具が揃っているということは、他の地域からも誘致ができるということになります。

(質問)

- ・ 今月の合宿に来られる競技種目は、何競技・何種目となりますでしょうか。

(市長)

- ・ パラ・パワーリフティング1種目と、陸上競技は、やり投げ、円盤投げ、砲丸投げ、短距離走(200m、400m)5種目となっております。

(質問)

- ・ 選手・コーチ・関係者10名となっておりますが、選手は何名となっておりますでしょうか。

(生涯学習部次長)

- ・ 引率1名、陸上競技コーチ1名、パラ・パワーリフティングコーチ1名、選手が7名となっております。

(質問)

- ・ k-Biz1周年記念シンポジウムについて、1年経過し、相談件数など順調な滑り出しと思うのですが、開設時に紹介されていた、相談を受け、新たな切り口で商品を作り出すであるとか、雇用増につなげていくためには、釧路に100人の雇用を生む1社を誘致することを目指すよりも、地元企業の経営の向上に力を入れて、例えば100社がそれぞれ1人の新規雇用を生むことを目指すことが大切というお考えをされておりましたが、現時点で、その点について、どのように考えておられますか。

(市長)

- ・ 基本的には、地元の会社が相談し、お金を掛けないで売り上げ増を目指していくという形です。色々と相談しながら進めていっており、リピーターの利用についても、成果が上がっていると聞いています。つまり、このような形をしっかりと行っていくことによって、雇用増ということに繋がってくると思っておりますので、しっかりと進めていきたいと思っております。

また、k-Bizには、秋頃から、アドバイザーの方も入ってくるということですので、さらに色々な成果が、出てくると思っております。雇用に結び付けていくことについては、このようなことをしっかりと行っていくことが重要であると考えており、一定程度の期間が必要であると思っておりますが、結び付いてくると思っております。

(質問)

- ・ ピーチ就航1年について、ピーチ側の発表では、予想を上回る搭乗率ということでしたが、市としての受け止めについてお伺いしたい。

(市長)

- ・ ピーチ就航については、目標に掲げていたところをクリアできたということは、大変良かったと思っております。その中でも、閑散期の問題でありますとか、どのような形にしていくかということは、常に、ピーチ本社の井上社長を含め、次なる展開を前向きに考えて相談しているところです。当初から3年間の中で、しっかりと定着をさせていくという取り組みを進め、考えながらやっていこうと伺っておりますので、この1年の成果を大事にしながら、次に繋げていけるように進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ ピーチはLCCで関西方面と繋いでいる大きな役割をしておりますが、いわゆる道内空港の一括民営化ということで、釧路空港の今後に向けた課題があるとしたら、どのようなことがありますでしょうか。

(市長)

- ・ コンセッションという民間委託という形のものでありますが、ここについては、釧路市のみならず、十勝の帯広空港、そして女満別空港も共通のテーマで要請をしてきました。それは、ひがし北海道をしっかりと活用するプランということで、3つの空港が統一して要請を出しておりました。こちらについては、これからできる特定目的会社(SPC)の中で、取り組んでいただきたいと、一貫してお話しております。その上で、釧路には、今、ピーチに就航していただいて、このような形の成果があがっておりますから、ここをSPCに期待していくことと、我々も一体となって、さらに釧路空港を活用していくということをしかり行っていくという考え方です。

(質問)

- ・ ひがし北海道の中に、多々空港がありますが、その中でも釧路空港の位置付けは、どのように考えていらっしゃいますか。

(市長)

- ・ 国の管理空港ということで、しっかりと整備されていることがあります。現在も、滑走路等の整備を進めていただき、これについて要請をしているところでもあります。空港の民間委託につきましても、所有権は国でありますので、しっかりと整備についての要請を行っているところです。

空港は、玄関口ですから、3空港の連携は重要であると思っております。ピーチの人の流れを見てもお分かりのとおり、釧路空港に入り、十勝地方やオホーツク地方に行く流れになっており、これが、空港の役割であると思っております。釧路空港、帯広空港、女満別空港のトータル便数として、今一番多いのは、釧路空港の1日30便で、3空港を足して80便ぐらいとなっております。新千歳空港もこれから便数が増えていく中で、民間に移行するという事は、空きをどのように活用するかということだと思っております。これをどのように活用するかが、今回のコンセッションという民間委託のベースとなりますので、そのような意味で、ぜひとも、釧路空港、帯広空港、女満別空港を活用いただき、ひがし北海道に結び付けていければと要請をしているところです。

(質問)

- ・ 釧路空港は、ひがし北海道の玄関口ということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。当市としては、そのような形で取り組んでいるところであります。何度もお伝えしているように、空港は玄関口ということだけではなく、空港の利用はもちろんであります。基本は、どれだけの人がこの地域の中で、宿泊等をしているかがポイントになってくると思っております。釧路空港を有する市長という立場もありながら、ひがし北海道に利用者を増やしていただくためには、釧路空港、帯広空港、女満別空港を活用すべきと考えております。

(質問)

- ・ 日韓関係の影響で訪問が中止になる等、影響が出ている市や町があると思いますが、釧路市で、影響を感じる場所があれば教えていただきたい。

(観光振興室室長補佐)

- ・ 今、大韓航空のチャーター機が来ているところでありますが、7月26日の初便の搭乗率は、79%となっており、前回より若干落ちていると聞いております。こちらは、5往復となっており、現在、8月1日までの3便が来ている状況です。

(質問)

- ・ 担当者の方に聞いたら、去年の初便は91%ということでしたので、そこから比べると、減っている状況でしょうか。

(市長)

- ・ 当然、影響があることは、他の地域を見ても感じております。韓国の場合は、人口が5,000万人ぐらいで、そのうちの60%の3,000万人が海外に行っているということです。もちろん、このような状況の中で、マイナスの部分があると思っておりますが、既存の予定しているものは、予定どおり進んでおり、若干その中の数字は落ちている状況です。今後については、これからどのような形をとっていけるかということが出てくると思っております。

(質問)

- ・ 市立病院の関係で、委託料の返還に係る訴訟になり、1年が経ちました。今現在、1年経過したことについての感想と、新たに作るとされている新棟の計画について、お示しいただける目途を教えてくださいたいと思います。

(市長)

- ・ 裁判の方は、現在、弁護士の方を含めまして、進めている状況です。議会の中でもお話をしている新たな計画については、年度内に示していきたいということです。現状はそこに向けて、院内で作業を行いながら進めていくという考えであります。

(質問)

- ・ 年度内に示すものは、一定程度の詳細な計画でしょうか。それとも、今回の件について、新たに院内で内容を協議し、改めて基本構想、コンセプト案を出すことになるのでしょうか。

(市長)

- ・ どのように新棟を作るかということは別ですが、どのような機能で、どのように実施していくかは、基本計画の中に盛り込まれたものでありまして、そこについては生きております。

(新棟建設推進室長)

- ・ 今日に至るまでに変わったものとしては、ニーズとして手術件数が増えている等があります。基本計画については、当院の機能は変わらないということで、条

件整理のところ、計画を作り直すというよりは精査するという状況です。

(市長)

- 基本計画は、コンセプトであって、その具現化するものが図面や設計であります。基本計画は、市立病院がこれからも地方・地域病院センターとして必要であるということで、変わりありません。実際に、当時出した数字と変わっているところは、もう一度確認しなければいけないことから、そのような意味での基本的なものについては、年度内にまとまるということです。

(質問)

- 7月下旬に行った中央陳情の際の手応え・成果について、教えていただきたい。

(市長)

- 一つは、千島海溝沖地震のシミュレーションがまだ出ていないということで、改めて内閣府をはじめ、各先生方にもお話をしてきたところです。やはり、この基本的なシミュレーションの津波について、早く出さない限りは、なかなか前に進めないという認識がある中で、そこは、早急に進めていきたいというお話もいただいたところでもあります。私どもは、そこをベースに国の3カ年の国土強靱化緊急対策を行っており、さらに、その先について相談してきているところです。そのような意味では、令和2年のことを見据えていきながら、基本的な要求は、来年度でありますけれど、令和3年度以降も踏まえた要請活動となっているところです。

他には、KCMの研修事業があります。火力発電所の建設については、来年11月まで工事が延びるという状況で、ぜひとも、令和2年に向けてもという話をさせていただきました。火力発電所の建設の遅れについては、人手の問題や、当該地域のアイスバーンなど冬期間の作業の困難さを含めてご理解をいただいておりますので、何とかこちらも盛り込んでいただけないかと期待を持ちながら、進めてきた状況です。

(質問)

- ひがし北海道クレインズについて、8月31日(土)から地元3連戦が予定されておりますが、市長のご観戦の予定はありますでしょうか。

(市長)

- 日程について、確認しなければいけませんが、釧路におりましたら行きます。

(質問)

- 岡山市への友好親善訪問団について、こちらは市長も参加されるのでしょうか。

(市長)

- はい、私も行きます。